

令和7年度

静岡県議会産業振興等海外事情調査団報告書

令和7年11月10日～11月15日

静岡県議会

目 次

I	はじめに	3
II	団員名簿	6
III	調査日程・行程図	7
IV	調査概要	
1	イオンモール デルタマス 〈日系ブランドの海外展開と本県農産物の商業展開等の可能性を調査〉	9
2	グランドラッキー ハラパン・インダー店「SANZEN」 〈食品ビジネスの環境、技能実習生の帰国後の就業関係を調査〉	13
3	西ジャワ州政府 〈西ジャワ州議会議長並びに議員及び州政府幹部との意見交換〉	16
4	インドネシア元日本留学生協会（プルサダ）西ジャワ支部 〈日本・インドネシア間の人材交流等の現状及び課題について調査〉	20
5	ハマレン・スバン研修センター 〈現地職業訓練校における日本語教育等の現状と課題を調査〉	24
6	豊田通商テクノパークインドネシア 〈企業の進出状況のトレンドやビジネスを取り巻く環境について調査〉	28
7	国際総合食品・飲料展示会 シアル・インターフード 2025 〈アジア市場における食品産業の動向、食品市場のトレンド等を調査〉	33
8	PT MASUYA GRAHA TRIKENCANA（マスヤ） 〈インドネシア市場における輸出入規制、物流における課題を調査〉	37

I はじめに



中沢 公彦

令和7年度静岡県議会産業振興等海外事情調査団は、11月10日から15日までインドネシアを訪れました。それぞれの視察調査報告は各団員の報告に委ねますが、私はインドネシア世情において、いくつかの特筆すべき点に触れたいと思います。

現在、東南アジア諸国では先進各国への労働力提供が母国のGDP向上に大きく貢献しています。インドネシアも御多聞に漏れず人材提供分野は大変な活況を呈しています。

インドネシア人材は既に国内でおよそ17万人、県内でおよそ6,000人が活躍されています。今後更なる人材登用が見込まれる中、現地における就労に向けた取組を視察調査することは大変重要であると同時に現地の行政や政治関係者、大学・送り出し機関・訓練センター等と良好な関係を構築することは、将来にわたる人材確保育成に必要な交流であると認識しています。

令和6年度静岡県議会では人口減少社会課題対応特別委員会が設置され、提言をまとめました。その中で外国人特定技能・技能実習制度（令和9年度から育成就労制度へ移行）による外国人材の活用と課題に対する提言が盛り込まれています。また、それに呼応する形で特定技能・技能実習制度に係る調査研究議員連盟が発足されました。県当局においても特定技能・技能実習制度に係るポジションが経済産業部に設置されることになりました。こうした背景をもとに今回の視察調査は意義があったものと確信しております。

インドネシア元日本留学生協会では、多くの方が国に帰り様々な分野で活躍されており、その方々が日本で働きたい若者を支援しています。未知の国へ行くことの不安払しょくに大いに役に立つことでしょう。

また、UNIKOM（私立大学）では、堪能な日本語を話す学生も多く日本への関心の高さを知ることができます。この大学は多くの企業協賛を受け学生を支援し、将来のインドネシアを担うべく優秀な人材の育成に余念がなく、相当なモチベーションを持った学生が日々学んでいます。2億3千万人を誇る人口の国

のマンパワーの一部を垣間見ることができました。私は、約 200 名の学生の前でつたないながらも静岡県のプレゼンテーションを 20 分ほどさせていただきました。誰一人うつむくことなく真剣なまなざしで私の話を聞いてくださった学生さんの輝かしい将来を願わずにはられません。

ハマレン研修センターでは 10 か所ある研修センターの一つを視察しました。代表の内藤ウスマン氏は、インドネシアと浜松市の二拠点生活を送っており、奥様は日本人です。最大受け入れ生徒数 1,000 名のキャパシティがあるセンターを運営され、送り出し機関と日本での受け入れ機関も運営されています。浜松インドネシア協会の理事も務めていらっしゃいます。訓練生の盛大な歓迎セレモニーは圧巻でした。感動し体が震えるような体験をしました。そして礼儀正しさと行動力は日本で働くことへの覚悟と期待が見受けられ大変頼もしく感じられました。将来のインドネシアの発展を期待させるものがそこにはありません。

西ジャワ州政府では、ブキ・ウィバワ議長をはじめ数多くの議会関係者・行政関係者とのミーティングを行いました。盛大な歓迎に恐縮しつつ、友好的な場を持つことができました。インドネシア人材の活用と西ジャワ州での日本企業の進出・投資に関する議題に多くの時間が割かれました。すでに多くの日本企業が進出していますが、雇用や産業振興における貢献度はかなり高く、インドネシア経済の一翼を担っていることはいまでもありません。

街行く自動車やバイクはほとんどが日本メーカーのものです。自動車はトヨタが圧倒的に多く、バイクではホンダが圧倒的に多く走っています。

今回は、西ジャワ州バンドンとジャカルタを中心に視察調査をしましたが、インドネシアの課題も見ることができました。その 1 つは道路インフラの問題です。基本的にどこへ行くにも大渋滞。日本では近年味わうことができないほどの渋滞です。道路そのものもよくありません。今回の視察では雨の日が多かったのですが、雨が降れば簡単に冠水してしまいます。尋常ではない渋滞は経済的ロスも非常に大きく喫緊の課題といえるでしょう。当然衛生環境にも影響があります。こうしたインフラへの課題対応が求められます。

また、途方もない貧富の差があります。経済の恩恵を享受する国民がいる一方で住む家や食事もままならない国民がいたるところで存在しています。イオンは、イオン・インドネシアやイオンモール・インドネシアが多くの出店を果たしていますが、客層はインドネシアの中上級層を想定しているとのこと。価格帯も日本の価格と遜色ないものばかりが売られています。

その一方、スラム街が各所で存在し、渋滞した道路では勝手に交通整理をすることでお金を要求する人、どこから持ってきたのか分からない花を売る人、あてもなく路上に座り込む人や寝ている人等々、多くの貧困にさらされている

人々が存在します。こうした貧富の格差に対する是正は相当困難な課題といえるでしょう。

しかし、この国の将来性を期待させるものが人口構成です。人口構成はきれいなピラミッド型をしています。若年世代が圧倒的に多く街から溢れ出るエネルギー感、将来への希望を見ることができます。彼らがこの国を担うであろう20年後ぐらいに東南アジア最大の国家であるインドネシアは人口が2億5千万人は超えていると思われます。実際2045年に先進国入りを目指した国家計画が進んでいます。この国の光と影。それはある意味日本とは真逆の状況といえるかもしれません。

最後に、多くの関係者の御尽力に感謝するとともに団員一同有意義な視察を実施することができましたことを報告します。

令和8年2月

静岡県議会産業振興等海外事情調査団

団長 中沢 公彦

Ⅱ 団員名簿

	役 職	氏 名	会 派
1	団 長	中 沢 公 彦	自 民 改 革 会 議
2	副団長	鳥 澤 由 克	自 民 改 革 会 議
3	副団長	曳 田 卓	ふじのくに県民クラブ
4	団 員	増 田 享 大	自 民 改 革 会 議
5	団 員	佐 地 茂 人	自 民 改 革 会 議
6	団 員	佐 野 愛 子	ふじのくに県民クラブ
7	団 員	四 本 康 久	ふじのくに県民クラブ
8	団 員	早 川 育 子	公 明 党 静 岡 県 議 団
9	団 員	塚 本 大	無 所 属

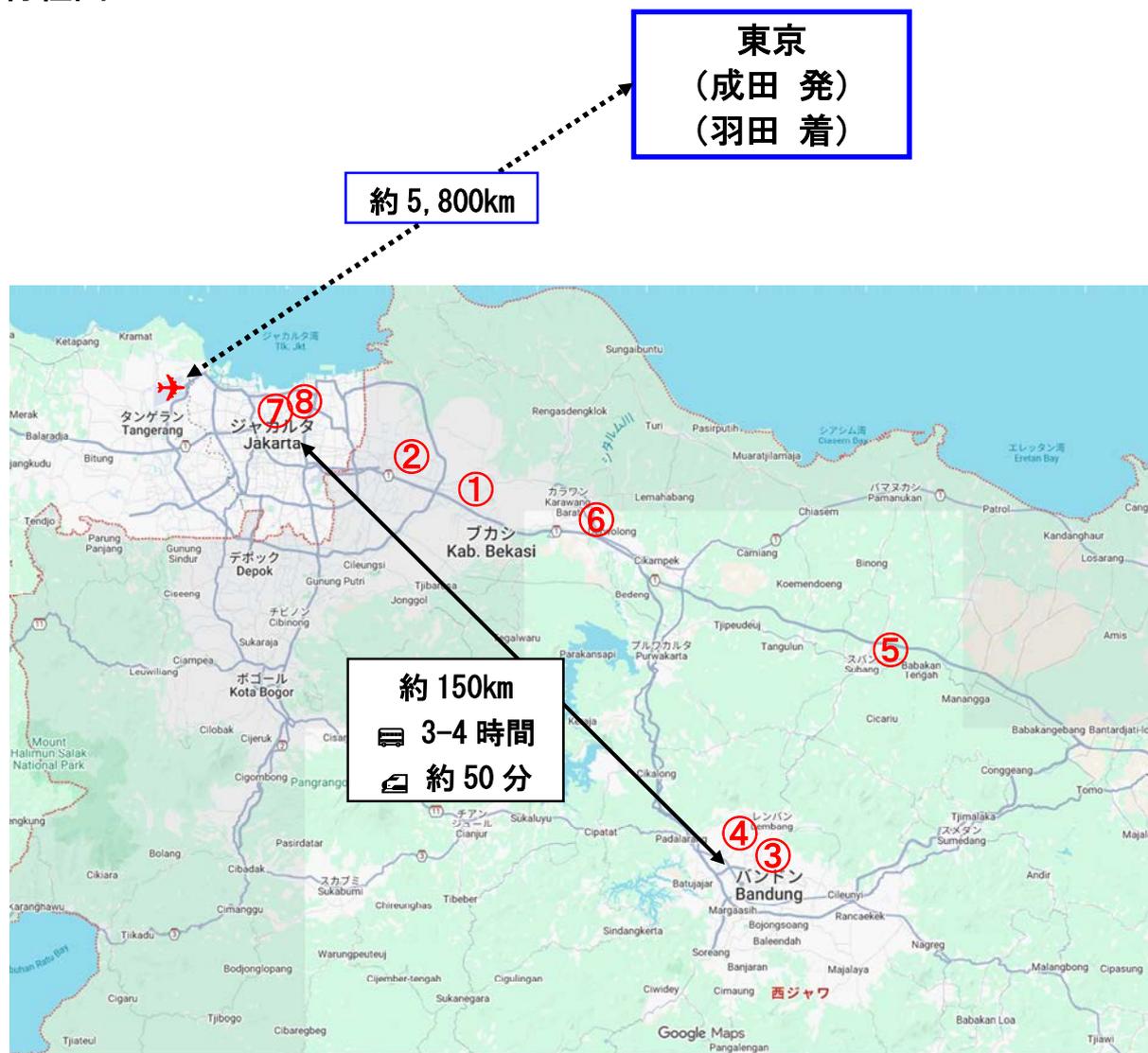
—	随 行 員	久 保 田 豪	議 会 事 務 局 議 事 課 長 補 佐
—	随 行 員	高 橋 悦 子	議 会 事 務 局 総 務 課 総 務 班 長

Ⅲ 調査日程・行程図

調査日程

月 日	国・都市	調 査 先	宿泊地
11月10日 (月)	—	(移動) 成田空港 ⇒ ジャカルタ	ジャカルタ
11月11日 (火)	インドネシア 西ジャワ州 ブガシ	○イオンモール デルタマス ○グランドラッキー ハラパン・インダー店 「SANZEN」	バンドン
11月12日 (水)	インドネシア 西ジャワ州 バンドン	○西ジャワ州政府 ○インドネシア元日本留学生 協会 (プルサダ) 西ジャワ支部	同上
11月13日 (木)	インドネシア 西ジャワ州 スバン	○ハマレン・スバン研修センター	ジャカルタ
	インドネシア 西ジャワ州 カラワン	○豊田通商テクノパーク インドネシア	
11月14日 (金)	インドネシア ジャカルタ	○国際総合食品・飲料展示会 シアル・インターフード 2025 ○PT. Masuya Graha Trikencana (移動) ジャカルタ ⇒ 羽田空港	機内
11月15日 (土)	—	(移動) ジャカルタ ⇒ 羽田空港	—

《行程図》



日付	番号	調査先
11月11日 (火)	①	イオンモールデルタマス
	②	グランドラッキー ハラパン・インダー店「SANZEN」
11月12日 (水)	③	西ジャワ州政府
	④	インドネシア元日本留学生協会 (プルサダ) 西ジャワ支部
11月13日 (木)	⑤	ハマレン・スパン研修センター
	⑥	豊田通商テクノパークインドネシア
11月14日 (金)	⑦	国際総合食品・飲料展示会 シアルインターフード2025
	⑧	PT. MASUYA GRAHA TRIKENCANA